



第42回定期大会 発言より①



業務課題について

- ▼中野統括センター中野南乗務ユニットでは乗務員疾病が続いている。急に記憶がなくなる、意識がなくなる、力が入らなくなる等の症状がある。椅子から落ちて骨折した社員もいた。
問題は会社としての受け皿ができていないことである。日勤に下ろされ、懲罰的にも見える。療養日勤ではないかと言ったが、仕事に出てきているなら仕事をしろと言われる。人によって日勤の長さが違う。1年以上下ろされたケースもある。原因究明で水質検査等もした。神主を呼んでお祓いもした。現在は沈静化している。
- ▼埼京運輸区分会の退勤点呼の問題について、大宮支社時代から退勤時間に点呼をやるのが管理者と乗務員の認識であった。退勤時間前に点呼をやろうとすると時間まで待たされることもあった。会社から教育もされていなかった。おかしい、隠蔽、疑問しかない。退勤時間を超えていた実態があるため、追給してほしい。
- ▼点呼の関係について、統括センターの社員が毎日全員集まって点呼しているが、無駄なことをしていると感じる。作業ダイヤが変わるときに対応されると思っていたが変わらない。声を上げなくてはいけないと思った。
- ▼月初めに統括センター全体で総点呼をやるが、リモートでやっているのだから長い。非番者が超勤になっている。
- ▼尾久駅で勤務している。輸送のプロだと思われるが、作業が少なくなっている。これから操車の仕事なくなる。カシオペアがなくなり、新しい作業もないので操車の育成ができない。病欠が出たら、出面の欠を出さないために経験のない社員を担当させている。職場で一人欠けるだけでも大変である。主任が操車をやっている現状もあるし、多くの社員が担務を掛け持ちしている。月1回の作業では忘れてしまい、定着できない。安全軽視ではないか。
- ▼アントが脱線する事象が発生したが、翌日脱線した線路を使った仕事を最初にやった。入換の際に30名くらいいて信号が見えない。脱線した線路にしか目が行っていない。
- ▼熱中症対策の一環でファン付きの作業服が支給されたことはありがたいが、会社はファン付き作業服で終わりにしようとしているのではないか。ファン付きの作業服も高温の環境下では効果がなく、保冷剤等更なる対策を求めていくことが必要。
- ▼松戸統括センターでは、ホームの担当は起番と通対、遺失物対応、さらに作業ダイヤの変更で改札をやることになるが、不安の中で対応している。統括センターになって副長宛のメールが全て松戸統括センターの内勤に来る。それを再送信している。それで精一杯になっている。
- ▼要員不足で仕事が回らない、3徹ありきと言われる。
- ▼東京新幹線運輸区は7月から輸送計画ユニットとサ品室ができて、制服の人と私服の人が一緒に仕事している。テーブルが増えて狭くなった。